全国公共図書館協議会研究集会

2012年6月1日

日本における電子書籍の現状

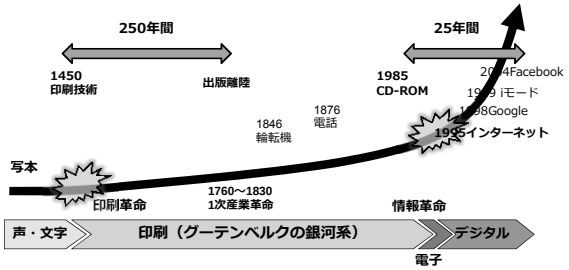
植村八潮

専修大学 文学部 人文・ジャーナリズム学科

（株）出版デジタル機構

情報量増大の社会的・技術的要因

印刷複製技術と伝達方法によって出版が変化
デジタル複製とネット流通によって劇的な変化



電子書籍とは

- 「電子書籍」と呼ばれる条件
  - 既存の書籍や雑誌に代わる文字や図画情報であること
  - 電子情報としてオンライン・オフラインで提供されるもの
  - 電子端末（パソコン，携帯電話，専用端末等）上で，特定フォーマットを表現できるビューワーで閲覧するもの
  - 有料コンテンツであること
- 「電子書籍」に不可欠な要素
  - インフラ・通信網→デバイス→コンテンツ→フォーマット
- 「電子書籍」とは呼ばないデジタルコンテンツ
  - インターネット上のブログ，内容は電子情報であっても紙に印刷して閲読するもの（オンデマンド印刷），無料で入手できるもの（オンラインカタログ）などは，一般的に「電子書籍」とは呼ばれない。また，広義の意味で電子出版物であるが，専用端末として販売されている「電子辞書」，医学情報や判例等のデータベースサービス，電子地図サービスなども電子書籍には含まない。

電子書籍の特徴

- 長所
  - 入手の容易性（本の探索・いつでもどこでも・ワンストップ）
  - 大量の本の携帯，将来的には全文検索
  - 書斎のクラウド化，端末間のポータビリティ
  - ハイブリッド（紙＋電子）、クロスメディアな提供
  - アクセシビリティ（文字拡大，読み上げ）
  - 集合知のクラウド化（ハイライト，リンク）
- 短所
  - 端末利用（重い，壊れる，電力利用，視認性の低下）
  - 頁概念の喪失（新たな表現の模索）
  - 「所有感」の喪失

電子書籍端末の歴史

1990 データディスクマン（ソニー）
1993 デジタルブック（NEC），インターネット商用利用
1994 オンライン雑誌『hotwired』，Netscape Navigator
1995 CD-ROM『新潮文庫の100冊』，Windows95発売
1998 ボイジャーT-Time，ロケットeブック（米国）
1999 電子書籍コンソーシアム実証実験開始
2002 eブック総崩れ状態（米国）
2004 リブリエ（ソニー），Σブック（松下）
2006 iLiad（iRex），ワーズギア（松下）
SONY Reader（米国ソニー）
2007 Kindle（アマゾン）
2009 Kindle2，nook
2010 iPad（アップル），Kindle3，GALAPAGOS（シ
2011 iPad2，Kindle Fire
2012 Kobo（楽天）

電子書籍ブーム

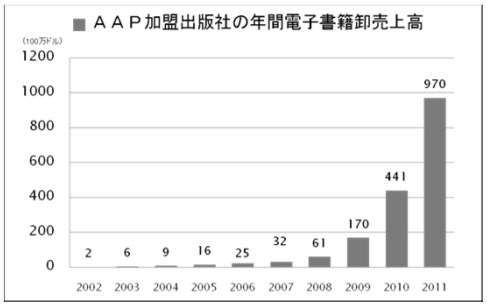
- グーグルブック検索和解訴訟（2009）
- 国立国会図書館所蔵図書のデジタル化（2010）
- コンテンツホルダーの凋落とプラットフォームの強権化
- 政策（三省）：日本型ビジネスの模索／国際競争力
- コンテンツ：印刷書籍のデジタル化が中心
- デバイス：ケータイ，スマホ，タブレット，電子書籍端末
- 活字離れではなく，情報流通の変化と読書の多様化

© Yashio Uemura 2012

日米の電子書籍市場

- 日本の電子書籍市場規模
  - 平成21年度は574億円
  - 平成22年度は650億円
  - 平成23年度は629億円(3.2%減)
- 日本の電子書籍は，携帯電話からスタートし，今でもスマートフォンを含む携帯電話向けのものが主流（電子書籍売上げの約9割）。コンテンツの中身は漫画が多い。
- 米国では，アマゾンによるキンドル2の発売（2009年）を契機に市場拡大。専用端末やタブレットPCを用いるものが主流。2011年末現在の市場規模は，卸売価格ベースで約10億ドル（約800億円）で，前年の2倍以上の伸び。高学歴、高収入の読書家が購入している傾向がある。

米国の電子書籍市場規模

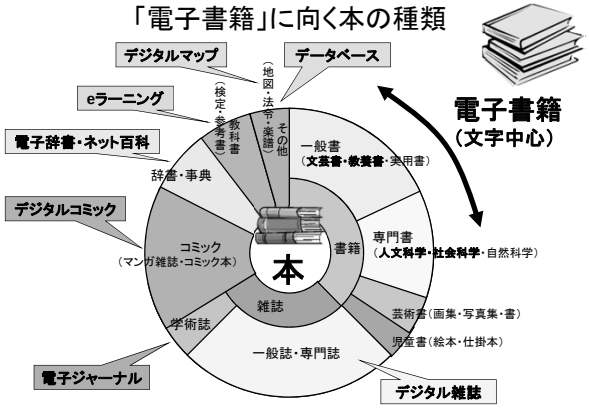


（出所：AAP（アメリカ出版協会）のデータを基に作成）

海外の電子書籍市場 IGAS eBook Forum2011

- 中国　1,050億元（1兆2600億円）／出版印刷12,698億元
  - 書籍・雑誌・新聞・音楽・ゲーム・アニメのすべてのデジタルコンテンツを指す
  - 携帯電話コンテンツ市場も含む
- ドイツ　2120万ユーロ（22億円）　書籍市場の0.5%
  - 8割の出版社が対応し，4割の新刊が同時に電子版（現在6万タイトル）
  - 2011年4月21日Kindle発売（米英に次3番目）「Kindle Store」独語2万5千点
- イタリア　70万ユーロ
- 英国　5300万ドル　（2010年に1.5%が2015年には14.2%）
- 韓国　1.80億ドル　（2013年に5.3億ドル）
- インド　書籍市場25億ドル（出版15－30%の成長）電子書籍2%
- 電子書籍専用端末
  - 米国が特出した成長をするが，日本はユーザーに受け入れられていない
  - 中国では多数の端末が発売

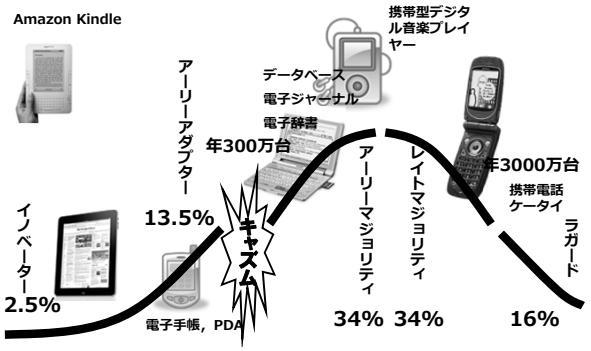
「電子書籍」に向く本の種類



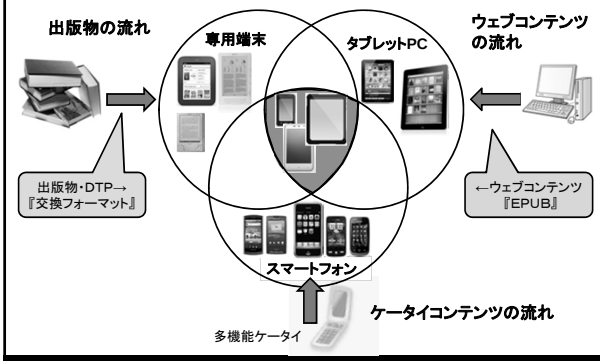
新しいメディアは古いメディアを模倣する

- マーシャル・マクルーハン「“進歩”の名において，われわれの官製の文化は，新しいメディアに古い仕事をするように強制する。」
- horseless carriage 〈古語〉自動車
  - when automobiles first replaced horse-drawn carriages they were called horseless carriages（自動車は、馬車に取って代わった当初、馬のいらない馬車と呼ばれた）
- 新しいメディアへの理解のアプローチ
  - 音声電信，無線電話，家庭映画館／映像ラジオ，携帯電話
  - ケータイ＞携帯電話＞電話
  - 「電子＋書籍＜書籍」→「電子＋書籍＞書籍」

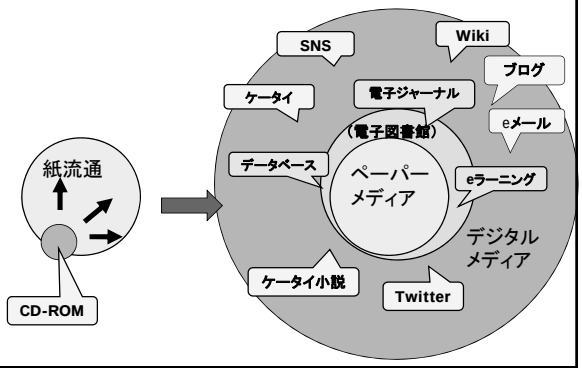
各種読書端末の普及（キャズムを越えるか）



電子書籍端末/コンテンツの三つの流れ

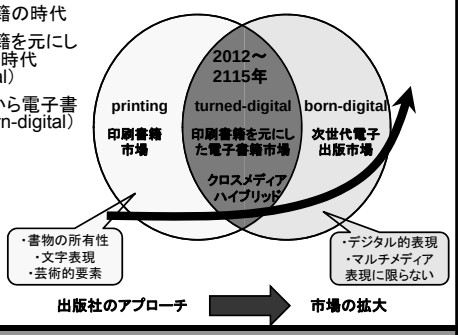


文字情報流通の主役交代

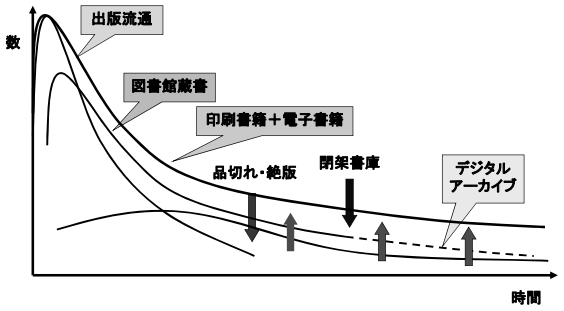


書籍と電子書籍の将来市場

- 過去：印刷書籍の時代
- 現在：印刷書籍を元にした電子書籍の時代（turned-digital）
- 将来：はじめから電子書籍の時代（born-digital）



出版流通と図書館蔵書とデジタルアーカイブ



“電子出版元年”以降の出版関連行政（1）

- 総務省，経済産業省，文部科学省「デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会」平成22（2010）年3～6月
  - 出版物の収集・保存や円滑な利活用のあり方，出版物へのアクセス環境の整備
  - ① 表現の多様性の確保
  - ② 知のインフラの整備
  - ③ 世界に負けないビジネスモデルの構築
- 総務省「新ICT利活用サービス創出支援事業（電子出版環境整備事業）」平成23年度
  - 電子書籍交換フォーマット標準化プロジェクト
  - 次世代書誌情報の共通化に向けた環境整備
  - 次世代電子出版コンテンツID 推進プロジェクト
  - アクセシビリティを考慮した電子出版サービスの実現
  - EPUB 日本語拡張仕様策定　他5事業

“電子出版元年”以降の出版関連行政（2）

- 文化庁「電子書籍の流通と利用の円滑化に関する検討会議」
  - 平成22年11月設置　報告書公表 平成24年1月
  - ① デジタル・ネットワーク社会における図書館と公共サービスの在り方
  - ② 出版物の権利処理の円滑化
  - ③ 出版者への権利付与
- 経済産業省「書籍等デジタル化推進事業」平成23年度
  - 個々の出版物の特性に応じた契約を円滑化する取組の構築
  - 中間・交換フォーマットの出版社・印刷会への普及促進
  - 外字・異体字が容易に利用できる環境の整備
  - 書店を通じた電子出版と紙の出版物のシナジー効果の発揮
- 電子書籍の流通環境が未熟であり，戦略的な基盤づくりが求められている
  - 小資本の出版社でも参入できる環境整備
  - 電子書籍制作のノウハウの共有

© Yashio Uemura 2012

pubridge

株式会社 出版デジタル機構

publish＋bridge

パブリッジが架け橋となることで
あらゆる端末、あらゆる書店、
あらゆる出版社を結ぶ

全ての著者、読者が参加できる場を作りたい

出版デジタル機構が実現したい5年後の姿

100万　10%　1

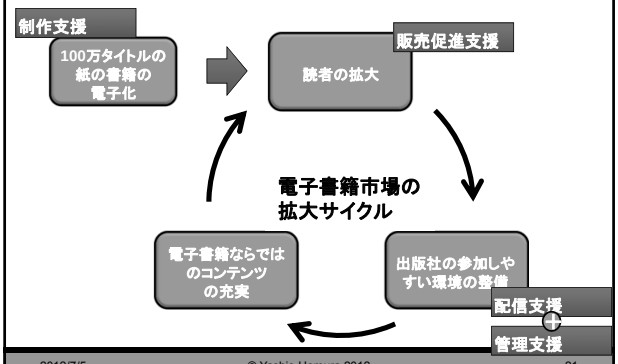
100万タイトルの
電子書籍コンテンツ

「知」へのアクセス

出版市場の10%
2,000億円の市場創出

1人から1億人にむけて
誰もが電子出版ビジネスを

4つのサービス提供による市場活性化



経済産業省「コンテンツ緊急電子化事業」

平成23年度補正予算

- 電子書籍市場の拡大と東北大震災被災地域の雇用促進に向けて、書籍の電子化作業に要する製作費用を国が補助する
  - 補助率は費用金額の50%
  - 補助金額　約10億円（電子書籍化事業総額：約20億円）
  - 電子化書籍のアイテム数：約6万タイトル（現在流通タイトル約3万点）
- 申請（2012年7月3日現在）出版社数：約260社
  - タイトル申請数：17,879件
  - フィックス型：10,695件
  - リフロー型　：7,184件
- フォーマット：あらゆる電子書店の配信に対応
  - フィックス型（600dpi　いつでもOCR対応）
  - リフロー型（DTPデータと文字入力から制作）

© Yashio Uemura 2012